

令和2年度ふくしま女性活躍応援会議議事概要

日時：令和2年11月5日（木）

13時10分～13時30分

場所：ビッグパレットふくしま 小会議室2・3

1 開会

2 挨拶

3 議事

議事（1）女性活躍推進に向けた主な取組状況について（報告）

（山ノ内男女共生課長から、資料1に基づき、女性活躍推進に向けた主な取組状況について説明）

（引き続き、福島県中小企業家同友会と福島県医師会から取組状況について説明）

○福島県中小企業家同友会 大沼副理事長

福島県中小企業家同友会は、よい会社をつくる、よい経営者になろう、そして、よい経済環境をつくろう、という3つの目的に沿いながら勉強を行っている団体です。福島県同友会は10の支部、1,900名の会員が在籍し、全国の同友会の中では7番目に多い同友会として、会員の組織率は全国で4位となっております。同友会には様々な委員会、部会がございますが、その中の女性部は、郡山地区単独で30年前から発足しております。中小企業家同友会は、女性経営者も含め、約10%、180名から200名経営者の女性が入会しております。中には、「男性、女性の隔たりはなくていい」という思いの強い女性経営者が多く、「我々は女性部に所属しなくてもいい」というような地区もございました。しかし、女性活躍を応援する全国の流れを受け、それぞれの県が女性部の設立に向けて動いていこうということで、2年前に福島県もそこに参画し、準備委員会を経て、昨年、県全体の女性部が発足したところでございます。まずは、女性の感性を経営に活かしていくために組織を広げていく、その一つには女性の力も必要だということで、県中、県南、県北、会津、浜エリアから委員が選出されて活動しております。具体的な活動としましては、女性経営者の会社訪問、体験報告を企画しながら、男性会員にも参加していただいて勉強会を行っております。現在はコロナ禍にあって、今年の半分は活動できておりませんが、9月から勉強会を開催しているところでございます。11月16日には、女性経営者全国交流会という女性部の全国大会が行われます。新潟県の女性部がアシスト役となりながら、

リモートの Zoom を活用し、700人以上の方たちとの勉強会が開催されます。9月には青年部の勉強会、リモートの Zoom を活用した全国大会が行われました。約1,700人が集まって全国の青年部のみんなとつながり、これが同友会で初めてのリモートの全国大会でした。今回、女性部が2回目のリモートを使った全国大会を開催するというので、これからも女性活躍を応援する取組を進めていきたいと考えております。

○福島県医師会 新妻常任理事

資料1の宣言3のワークライフバランスの推進、3の②について説明いたします。福島県地域医療症例検討会における県内で研修中の女性医師支援のための個別相談会の実施についてですが、これは福島県臨床病院ネットワーク、それから福島県立医科大学医療人材支援センターと福島県医師会の共催で、福島県内で働く初期研修医に対して、モチベーションアップ、あるいは技術力向上、医療レベルの強化を図るために、症例を通じて診療研修結果を発表するという場を設けようということで始まり、年2回開催しているわけですが、今年度は初期研修は1年次が101名、2年次が96名参加しております、そのうち女性医師は30%です。女性医師にとって、ちょうどキャリア形成の時期と出産育児等が重なり、どうしても仕事と育児を両立するのが非常に難しいということで、この問題をサポートして、個別にその人に応じた働き方を提案するというのでやっております。女性医師にとっては非常に評判のいい会でございます。

議事(2) ふくしま女性活躍応援会議の今後の取組について

(男女共同参画に向けた取組や、ウィズコロナ社会における新しい働き方や女性活躍等について意見交換を行った。発言のあった団体は下記のとおり。)

○福島県女性団体連絡協議会 小林清美会長

知事の御挨拶にもありましたように、ふくしま女性活躍応援会議ではすばらしい取組を行っているわけですが、私達女性にとっても大変心強いばかりですが、県の中央というか上の方で活躍している人も多いのですが、地方に行きますと、まだまだ男女共同参画社会の取組、意識の改革が男性も女性もなかなかできていません。まだ働きやすい環境が整っていないので、私達もいろいろ一緒に協力し合いながら、地域で活動はしているのですが、やはり私達が望むことは、今日は高等学校の先生もおいでになっているようですが、小さいうちから、早ければ児童のうちから、小・中学校では男女共同参画社会の勉強はしていると思うのですが、私達も50過ぎてからそ

ういう勉強をしたものですから、まだなかなか身につけていないということがありますので、保育所や幼稚園児、小中学生、高等学校の生徒が小さいうちからそういう場に慣れながら、感覚を養う。そのためには、保育所の先生や、小中学校の先生を対象とした研修を拡充していただきたいなと思っておりますし、私達もその後押しをしていきたいと思っております。

○福島県商工会連合会 佐藤敏文事務局長

商工会の組織につきましては、地域総合経済団体として、「すべては地域商工業者のために」というスローガンを掲げて活動しております。

現在のウィズコロナにおいて、感染防止対策の必要はさることながら、事業者の持続的発展に努めているところであります。商工会の女性職員に関しましては、357名中166名、約46%を占めております。男女比率を半々にという目標を掲げておりますが、管理的指導者等の立場としての女性の割合が低いということで、専門性、企画・立案する時間がなかなか確保できないという観点がございます。その中で、このコロナ渦において変えられた働き方ということで、在宅リモートの促進を行っております。それによって各自の時間が確保されまして、今後は、管理的指導的職種を目指す女性職員は、かなり多くなってくると感じております。先が見えにくい経営環境の中でございますが、支援機関としては職員の働き方を工夫して、地域商工業者の発展に努めてまいりたいと思っております。

○アカデミアコンソーシアムふくしま 山下治福島工業高等専門学校校長

アカデミアコンソーシアムふくしまでは、県内にある高等教育機関のいろんな課題を解決するために集まり、情報を交換しながら対応しております。女性活躍に関する取組についても、それぞれの学校が様々な課題を抱えておりますが、それぞれに対応した取組を行っております。それから、この宣言1、宣言2、宣言3、それぞれの取組もあるのですが、アカデミアの立場からすれば、まずは学生をどうするかということが極めて重要で、例えば、学生向けの就職ガイダンス、キャリアアップセミナー、労働条件セミナーなどで、女性が円滑に就職活動なり会社で活躍することができる環境を学生時代に学んでもらうということをしてしております。また、女性職員をどうやってサポートするかですね。出産などでいろいろと大変な状況の先生をどうやってサポートするかとか、休んだ先生をサポートする非常勤職員とか教職員の配置など、「自分は働きたい」という女性の先生方、そういった人をサポートするための支援制度ですね。例えば、学生に研究活動や教材づくりを手伝ってもらうようなこともやっています。アカデミアコンソーシアムでは、そういった取組をそれぞれの学校で取り入れながら、女性活躍のための場を作っていきたいと思っております。

○福島県男女共生センター 千葉悦子館長

男女共生センターは今年で20周年を迎え、このコロナがなければ、20周年記念事業を開催する予定でしたが、中止せざるを得ず大変残念です。

当センターは県における男女共同参画の拠点ということで様々なことに取り組んでおります。特に重要だなと思っているのは、男女共同参画は非常に大事なことだということが分かってはおりますが、それぞれの置かれている立場によってニーズが異なり、それぞれのニーズに対応した丁寧な支援活動をしていく必要があると思っております。

例えば、起業しようとする方々の支援、あるいは管理職に上がろうかな、どうしようかなと悩んでいる方、そういう方々に対しては、リーダーになることを前向きに捉え活躍できるよう支援を行っております。あるいは、学生を対象に、男性が多い業界で働きたいと思っている方に対しては、例えば、「けんせつ・どぼく女子座談会」といった取組で、建設業界で実際に働いていらっしゃる方に来ていただいて、仕事の魅力ややりがいなどを話してもらい交流するという取組を行っております。また、やはりすごく大事なものは男性ですね。男性の意識改革が大事だと思っておりますので、イクボスをテーマとした講座を積極的に行っております。これらの取組は、できれば県レベルだけではなく、市町村レベルに広げていくことが大きな課題だと思います。その役割をセンターが担っていかなければならないと思っております。

4 閉会